

塩竈市 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査 調査結果報告書【概要版】

令和6年3月

塩竈市では、「子ども・子育て支援法」に基づき、教育・保育、子育て支援の充実を図るため、令和7年度を初年度とする「第3期子ども・子育て支援事業計画」の策定を予定しています。

計画策定にあたり、市の現状や今後の課題等を整理するためのニーズ調査を実施しました。調査結果をもとに分析等を行い、計画策定の資料として活用して参ります。

調査概要

●調査対象・有効回収数（率）

調査種別	調査対象	配布数			有効回収数（率）		
		施設	郵送	WEB	施設	郵送	WEB
就学前児童調査	令和5年11月1日現在、塩竈市に在住の就学前児童を持つ保護者	施設	1,044	1,482	施設	918	1,131 (76.3%)
		郵送	438		WEB	95	
小学生調査	令和5年11月1日現在、塩竈市に在住の小学生を持つ保護者	施設	1,170	1,188	施設	942	947 (79.7%)
		郵送	18		WEB	3	

●調査方法

就学前児童調査：幼稚園・認可保育園等を利用している児童の保護者には、施設を通じて調査票を配布・回収しました。

それ以外の児童の保護者には、郵送により調査票を配布・回収しました。なお、郵送で配布した調査票には2次元コードを付与し、WEBからも回答できるようにしました。

小学生調査：市立小学校に通学している小学生の保護者には、小学校を通じて調査票を配布・回収しました。

それ以外の小学生の保護者には、郵送により調査票を配布・回収しました。なお、郵送で配布した調査票には2次元コードを付与し、WEBからも回答できるようにしました。

●調査期間

令和6年1月5日（金）から令和6年1月19日（金）まで

※集計には2月7日（水）までの回収票を含めました。

調査結果

※以降の分析にあたっては、一部、平成30年度に実施した調査（前回調査）との比較を実施しています。
 ※図表内のnと表記がある数値は、回答割合（%）算出の基数（調査数）です。

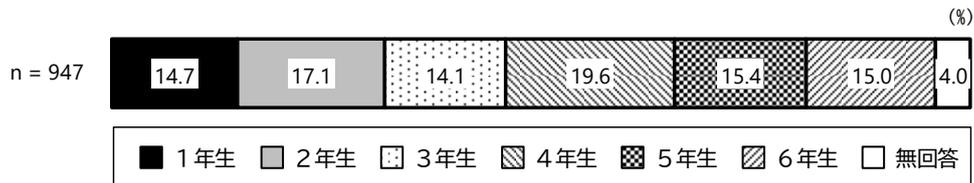
1 子育て家庭の状況について

図表1：年齢・学年

就学前児童：問1

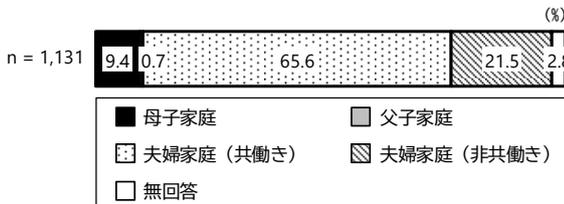


小学生：問1



図表2：家庭区分

就学前児童：問3・4

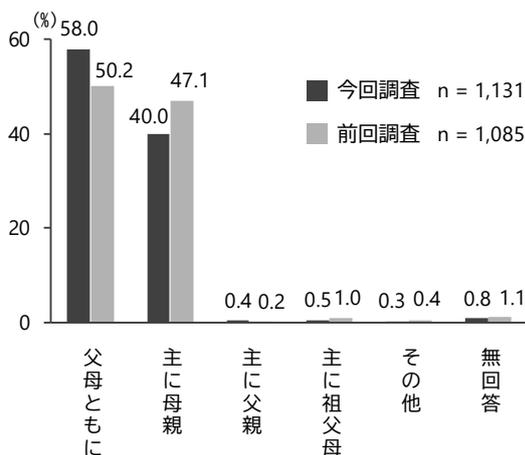


小学生：問3・4

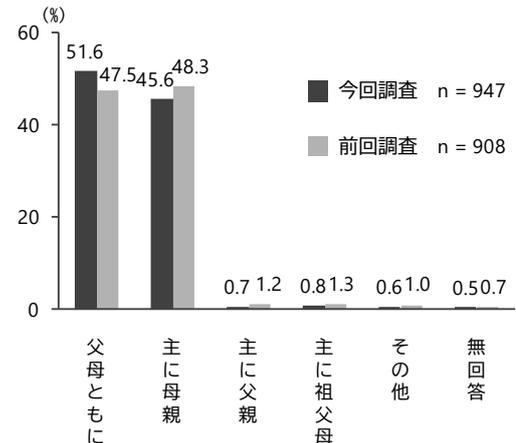


図表3：主に子育てしている方

就学前児童：問5



小学生：問5



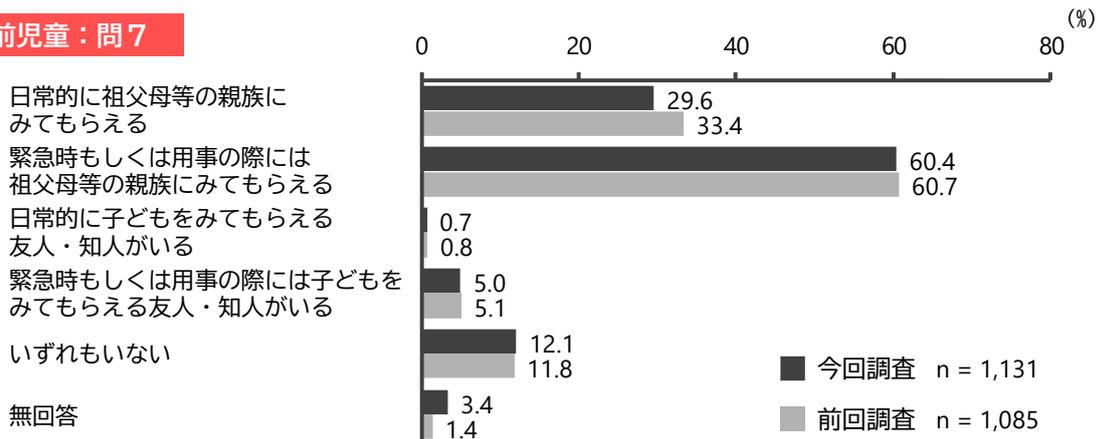
2

周囲の関わりや協力について

- ▶ 就学前児童の保護者の多くは、前回調査時と同様に、日常において、また緊急時や用事の際に、親族や友人・知人に子どもをみてもらえる状況となっていました。親族に子どもをみてもらうことについては、「安心して子どもをみてもらえる」と感じている方が多く、友人・知人にみてもらうことについては、「負担をかけていることが心苦しい」と感じている方が多くなっていました。
- ▶ 一方で、誰にも子どもをみてもらえる状況にない方が約1割となっていました。家庭区別にみると、母子家庭では8.5%となっていました。

図表4：子をみてもらえる親族や友人・知人の状況（複数回答）

就学前児童：問7

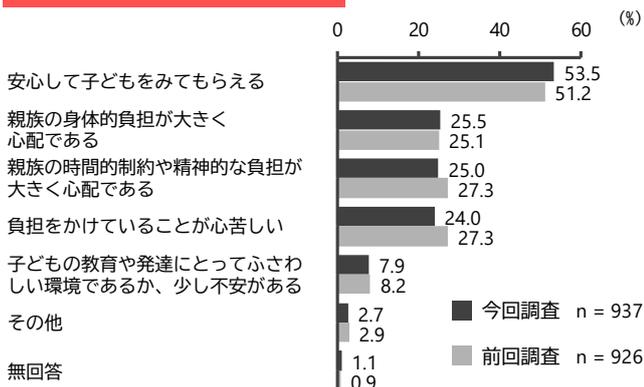


【家庭区分別/子をみてもらえる親族・知人の状況（複数回答）】

家庭区分別	n	状況 (%)					
		日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	いずれもない	無回答
全体	1,131	29.6	60.4	0.7	5.0	12.1	3.4
母子家庭	106	49.1	48.1	0.9	5.7	8.5	5.7
父子家庭	8	50.0	25.0	-	12.5	-	12.5
夫婦家庭（共働き）	742	28.7	61.7	0.4	4.0	12.1	2.7
夫婦家庭（非共働き）	243	25.1	63.8	1.6	7.4	13.6	2.5

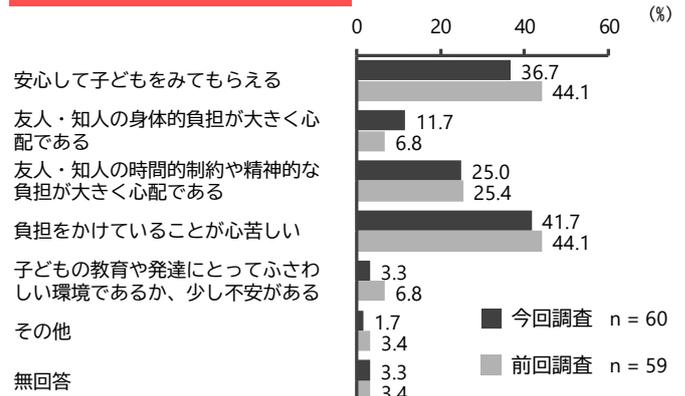
図表5：子を親族にみてもらうことについての考え（複数回答）

就学前児童：問7-1



図表6：子を友人・知人にみてもらうことについての考え（複数回答）

就学前児童：問7-2

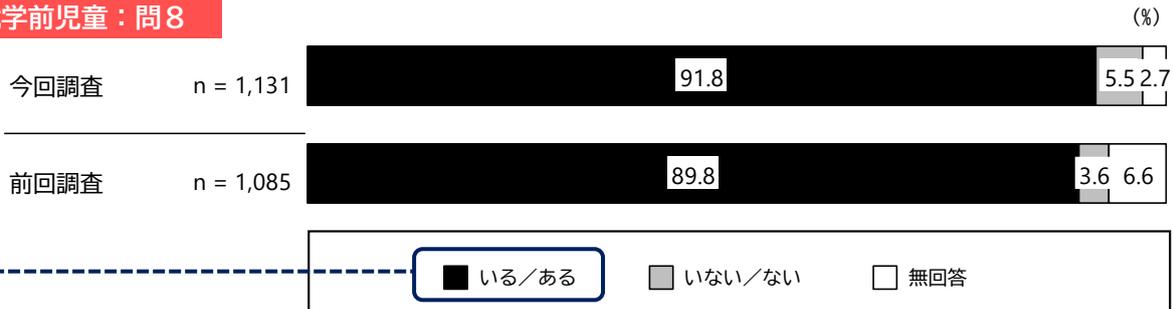


3 気軽に相談先について

- ▶ 子育てに関する気軽に相談先については、前回調査時と同様に、約9割の方が気軽に相談できる相手が「いる／ある」と回答していました。相談先としては「祖父母等の親族」や「友人や知人」といった身近な方が多く、次いで「保育士」や「幼稚園教諭」といった施設の職員となっていました。
- ▶ 一方で、気軽に相談先が「いない／ない」と回答している保護者も一定数おり、家庭区分別にみると、ひとり親家庭では5.3%となっていました。

図表7：子育ての気軽に相談先の有無

就学前児童：問8

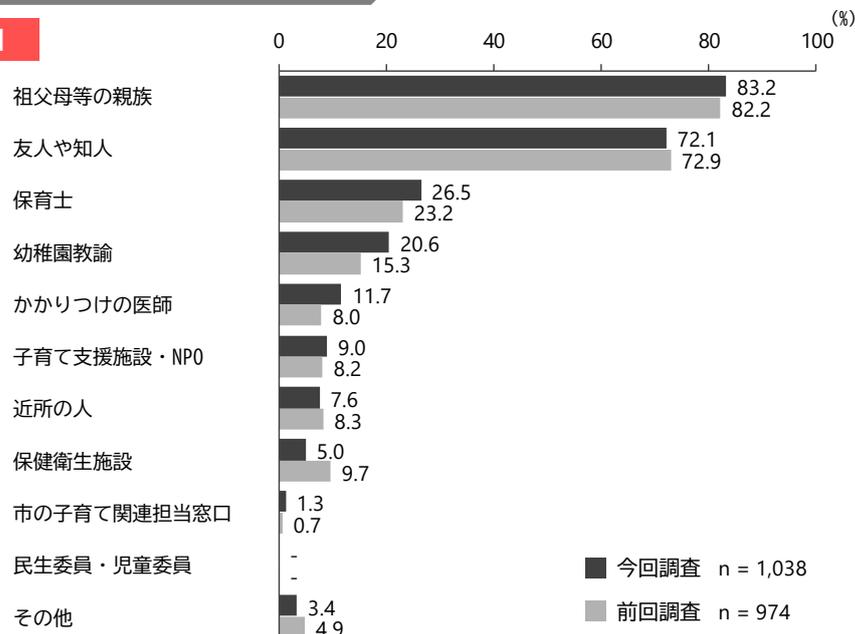


【家庭区分別/子育ての気軽に相談先の有無】 (%)

		n	いる／ある (%)	いない／ない (%)	無回答 (%)
全体		1,131	91.8	5.5	2.7
家庭区分別	ひとり親家庭	114	92.1	5.3	2.6
	夫婦家庭（共働き）	742	93.1	4.6	2.3
	夫婦家庭（非共働き）	243	88.9	7.8	3.3

図表8：子育ての気軽に相談先（複数回答）

就学前児童：問8-1



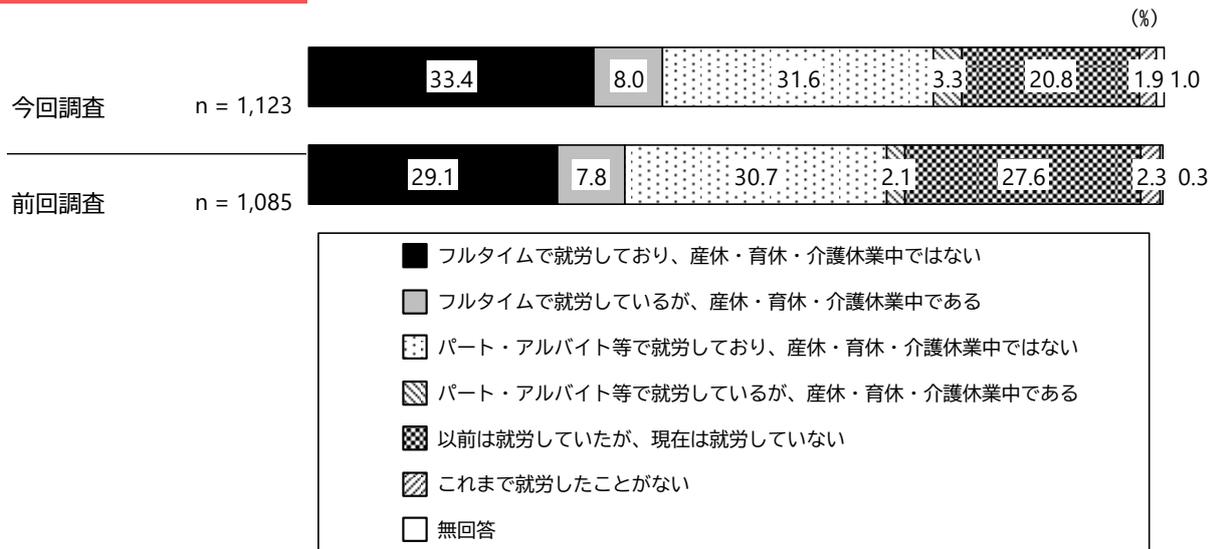
4

就労状況について

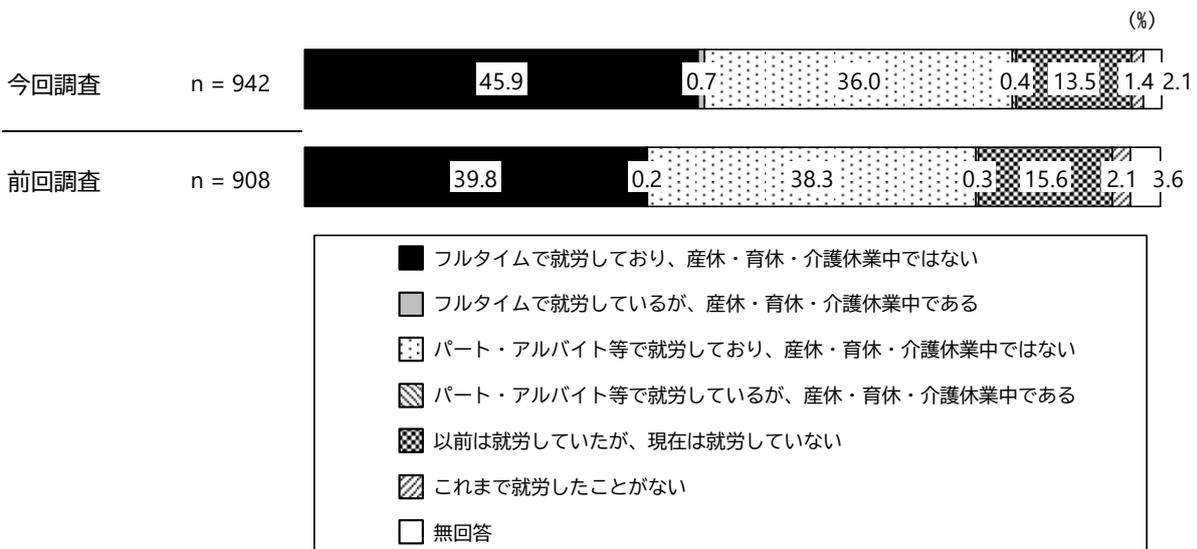
▶ 母親の就労状況をみると、フルタイムやパート・アルバイト等で働いている方が、就学前児童の保護者では76.3%、小学生の保護者では83.0%となっていました。前回調査時（就学前児童：69.7%、小学生：78.6%）と比べ、働いている母親の割合が多くなっていました。

図表9：母親の就労状況

就学前児童：問9（1）



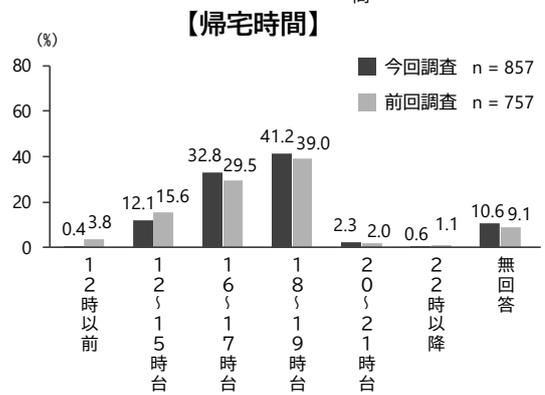
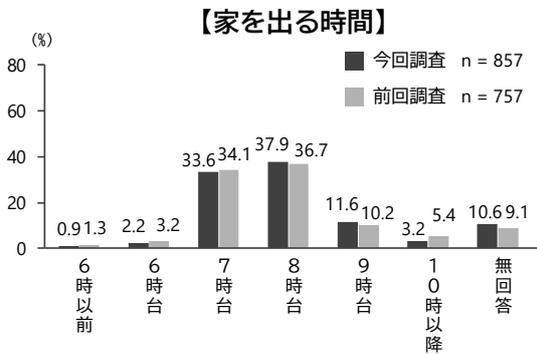
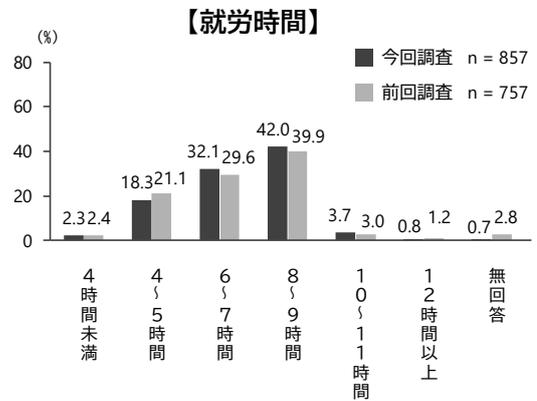
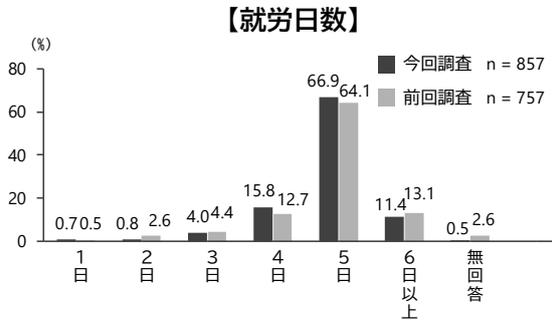
小学生：問6（1）



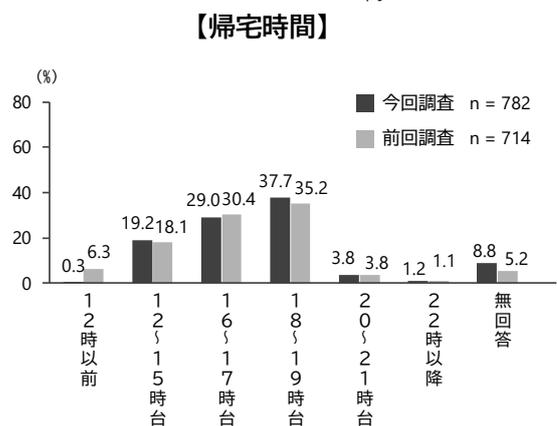
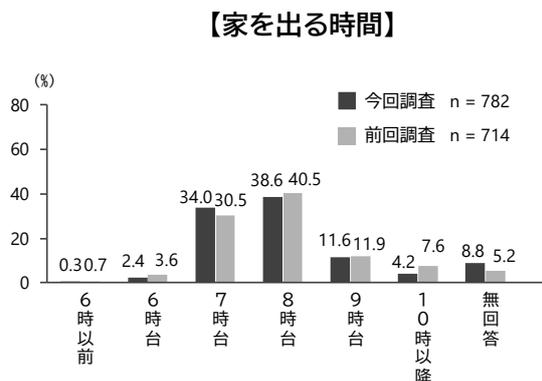
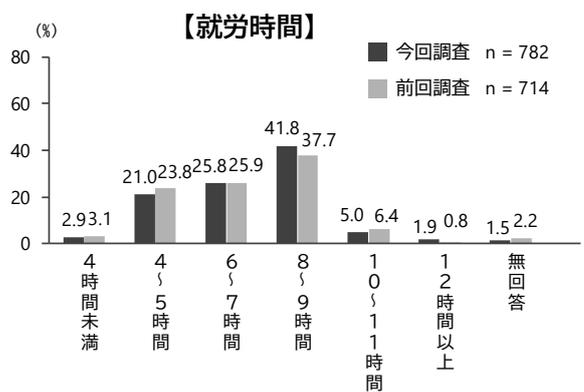
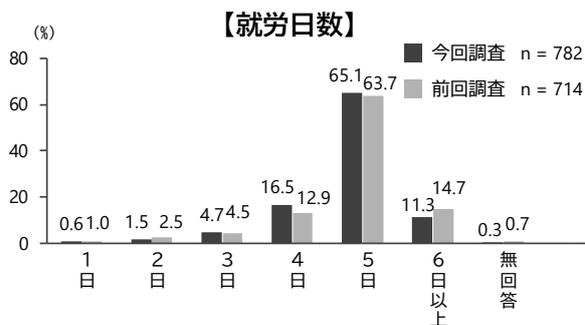
▶ 就学前児童・小学生の保護者ともに、就労日数や就労時間等は、前回調査時と大きな傾向の変化はありませんでした。1週当たりの就労日数は「5日」、1日当たりの就労時間は「8～9時間」、家を出る時間は「8時台」、帰宅時間は「18～19時台」が多くなっていました。

図表 10：母親の就労日数・就労時間・家を出る時間・帰宅時間

就学前児童：問9(1)-1・問9(1)-2



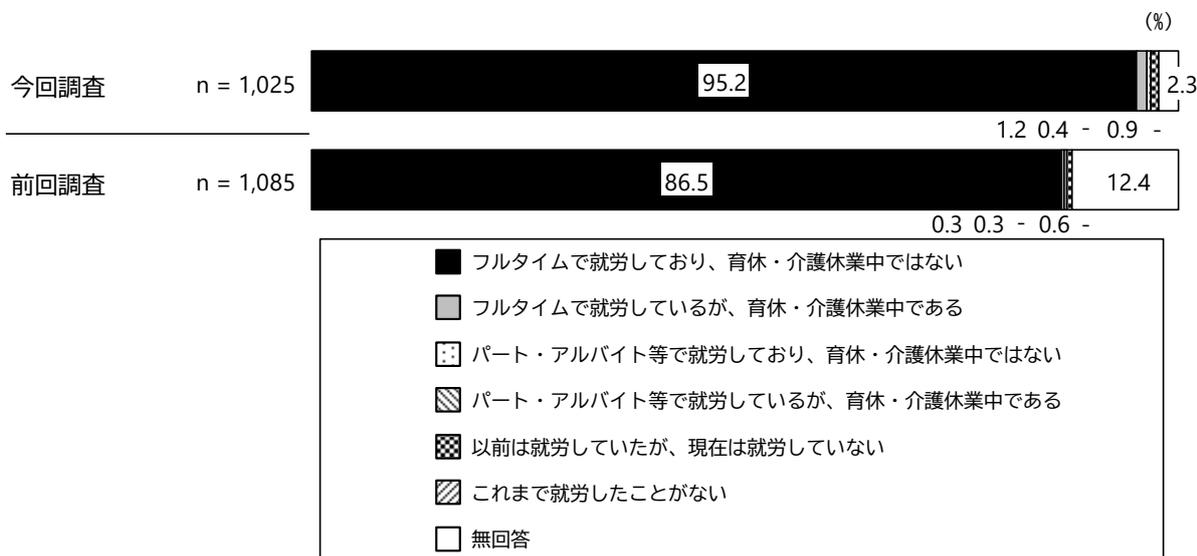
小学生：問6(1)-1・問6(1)-2



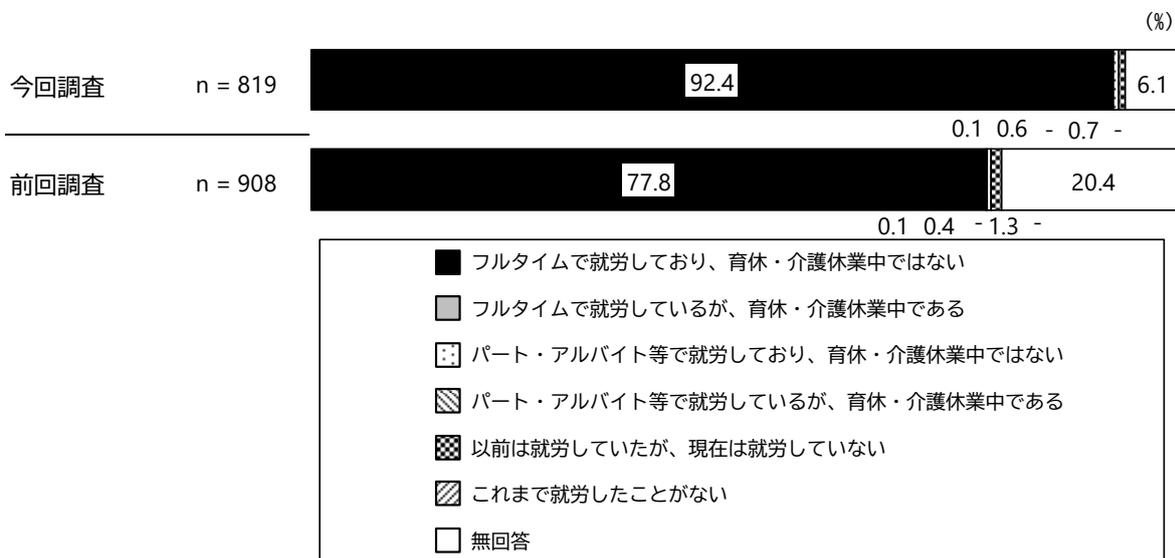
▶ 父親の就労状況を見ると、フルタイムで働いている方が、就学前児童・小学生の保護者ともに9割以上となっていました。

図表 11：父親の就労状況

就学前児童：問9（2）



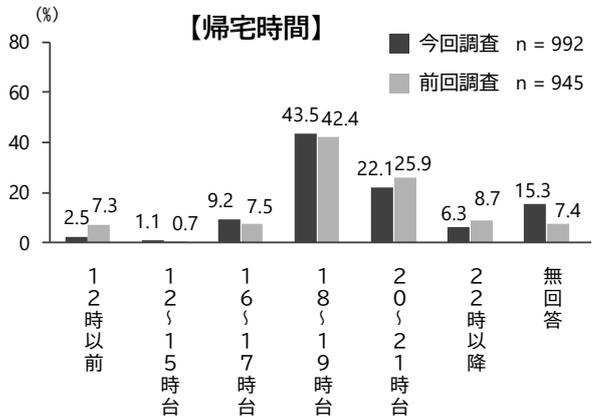
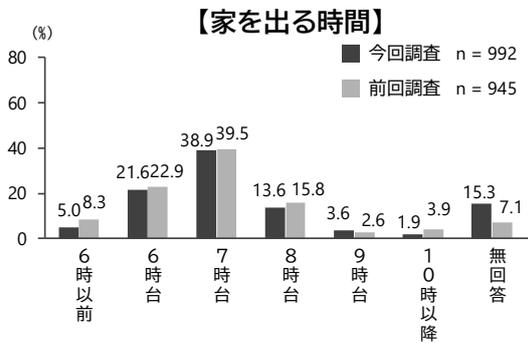
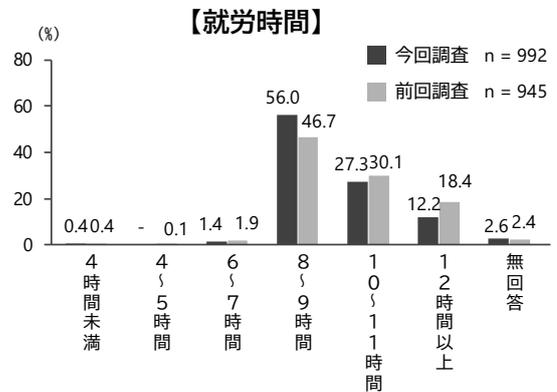
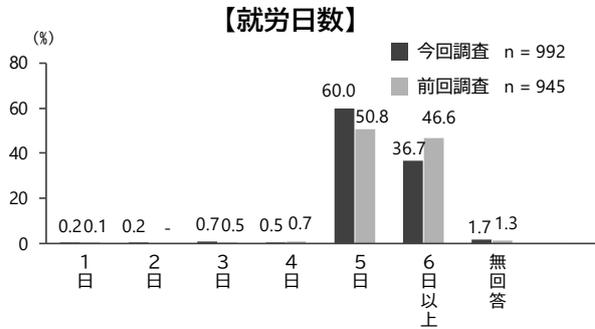
小学生：問6（2）



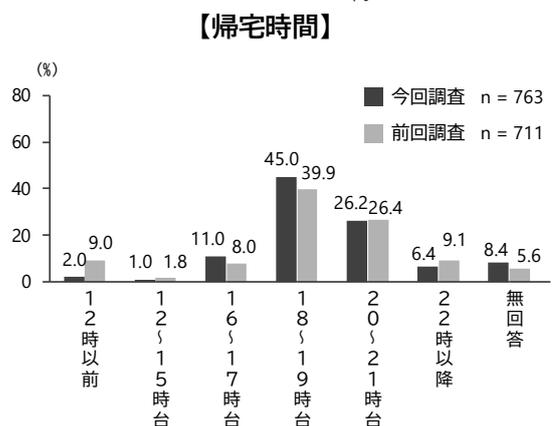
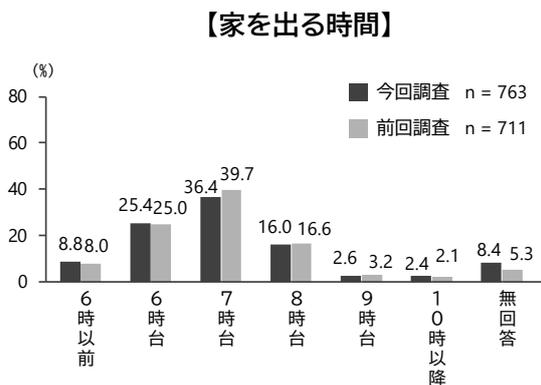
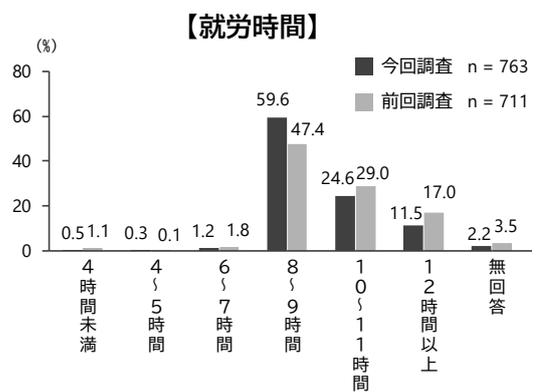
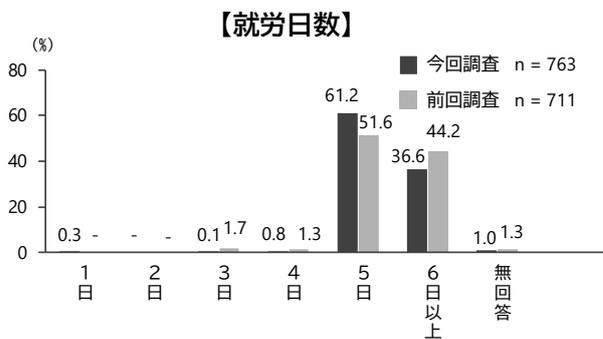
- ▶ 就学前児童・小学生の保護者ともに、前回調査時は、1週当たりの就労日数が「6日以上」と回答した方が4割以上、「12時間以上」と回答した方が約2割と、長時間労働の方が比較的多くなっていました。一方、就労日数・就労時間の改善が見られ、「18～19時台」には帰宅される方の割合が多少増加していました。

図表 12：父親の就労日数・就労時間・家を出る時間・帰宅時間

就学前児童：問9(2)-1・問9(2)-2



小学生：問6(2)-1・問6(2)-2



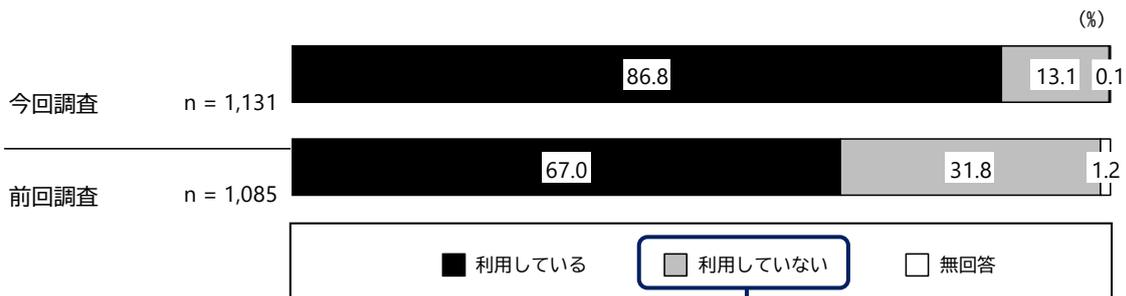
5

定期的な教育・保育事業の利用状況・希望について

- ▶ 就学前児童の保護者では、定期的な教育・保育事業を利用しているのは 86.8%でした。前回調査時から 19.8 ポイント増加しました。
- ▶ 一方で、定期的な教育・保育事業を利用していない方の理由として、「子どもがまだ小さいため」が 35.1%、次いで「利用する必要がないため」が 33.8%、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがないため」が 12.2%でした。

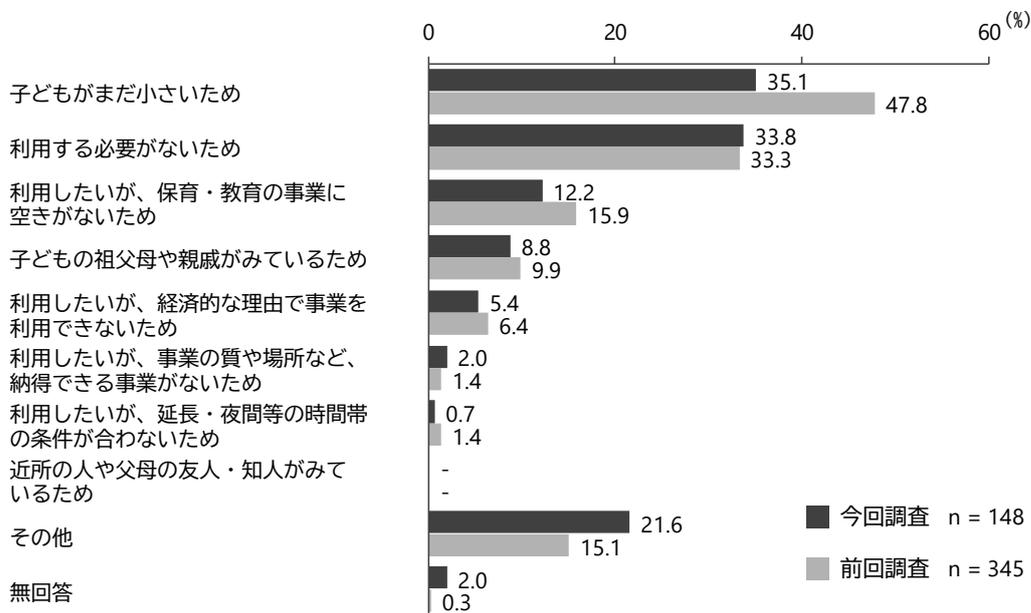
図表 13：定期的な教育・保育事業の利用状況

就学前児童：問 12



図表 14：定期的な教育・保育事業を利用していない理由（複数回答）

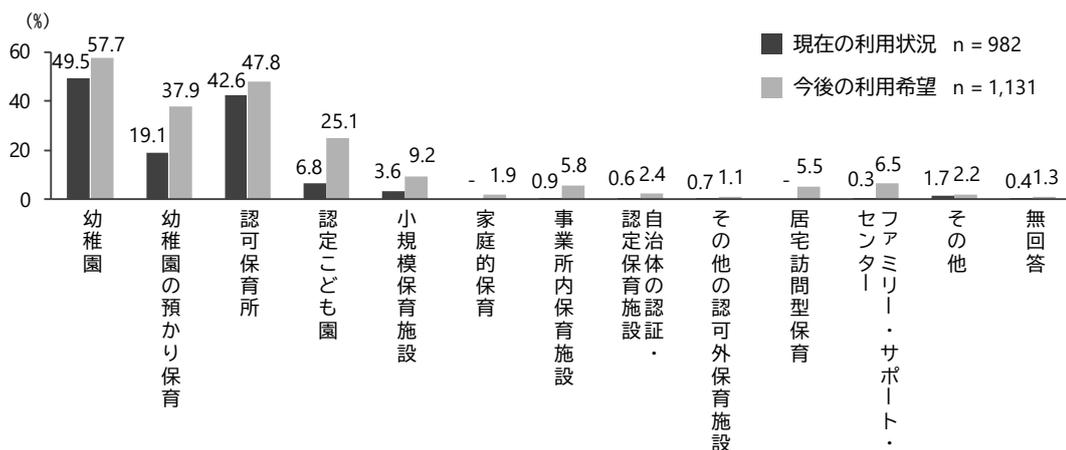
就学前児童：問 12-5



- ▶ 平日の定期的な教育・保育事業の現在の利用状況は、「幼稚園」が49.5%、次いで「認可保育所」が42.6%でした。全体的には保育事業（認定こども園を含む）が74.3%で最も利用されていました。
- ▶ 現在の利用状況と今後の利用希望と比較すると、「幼稚園の預かり保育」が18.8ポイント増、次いで「認定こども園」が18.3ポイント増でした。利用日数や利用時間等の現状と希望においては、大きな傾向の変化はありませんでした。

図表 15：平日の定期的な教育・保育事業の利用状況と今後の利用希望

就学前児童：問 12-1・問 13

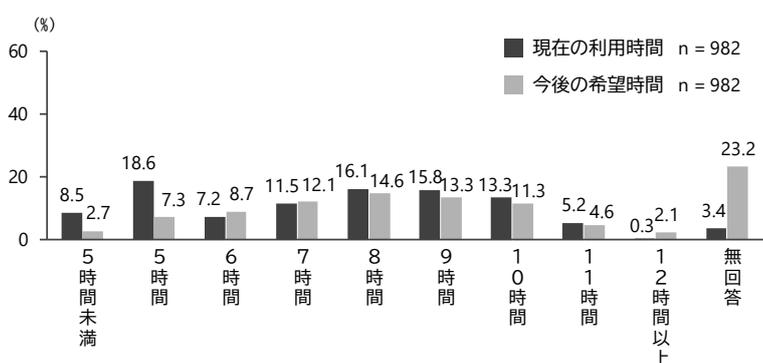
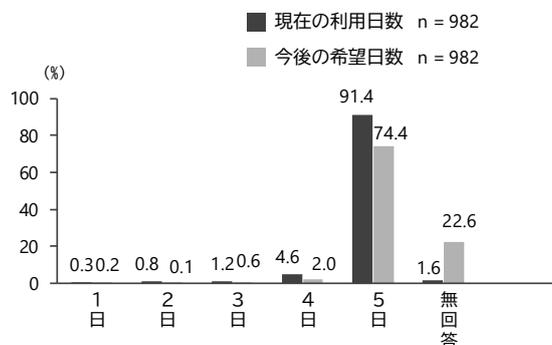


図表 16：平日の定期的な教育・保育事業の利用日数・利用時間等の現状・希望

就学前児童：問 12-2 (1)・(2)

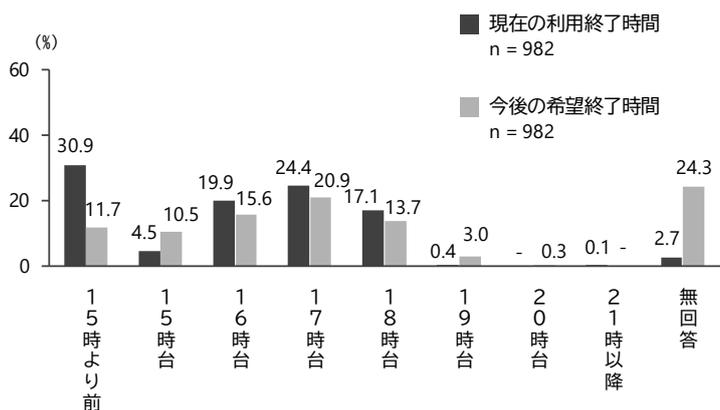
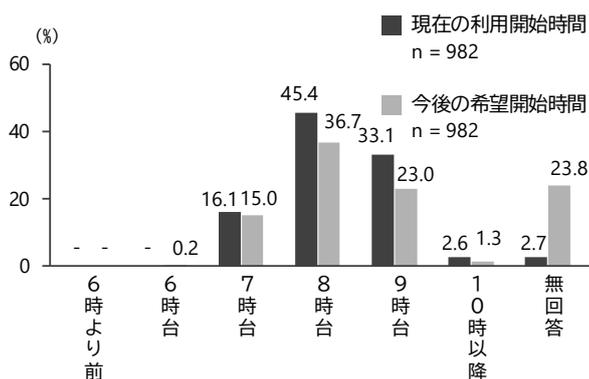
【日数】

【時間】



【開始時間】

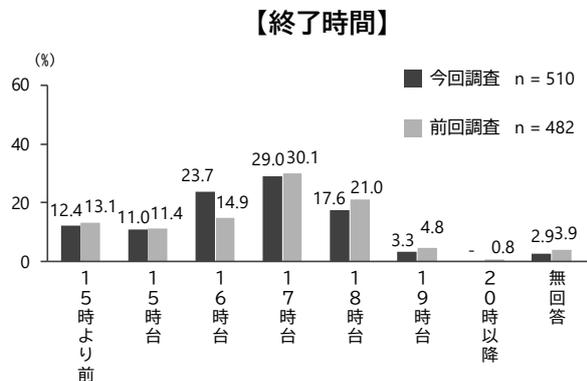
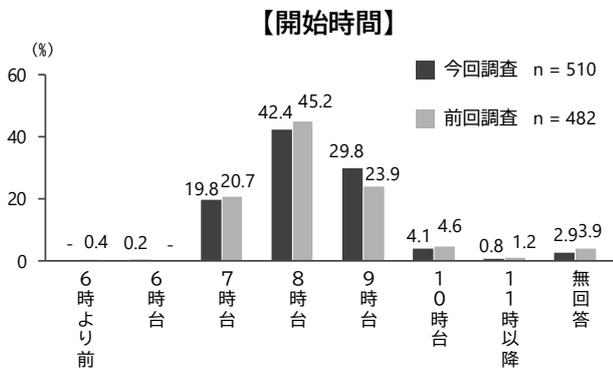
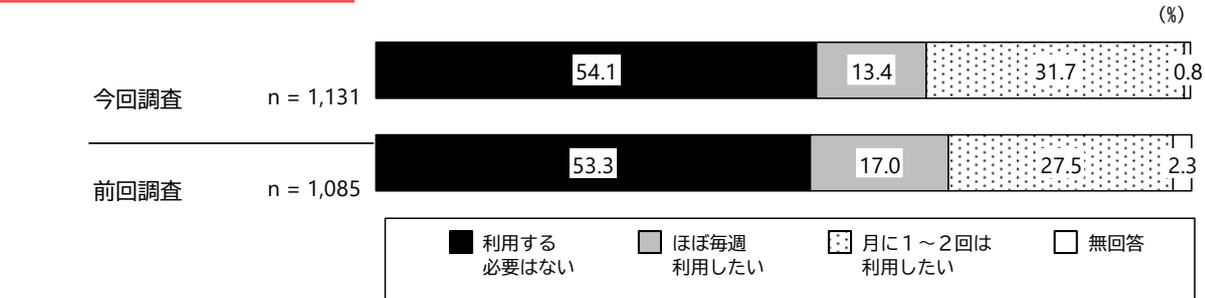
【終了時間】



- ▶ 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望については、「月に1～2回は利用したい」が31.7%、次いで「ほぼ毎週利用したい」が13.4%でした。
- ▶ 日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望については、「月に1～2回は利用したい」が18.0%、次いで「ほぼ毎週利用したい」が3.4%でした。

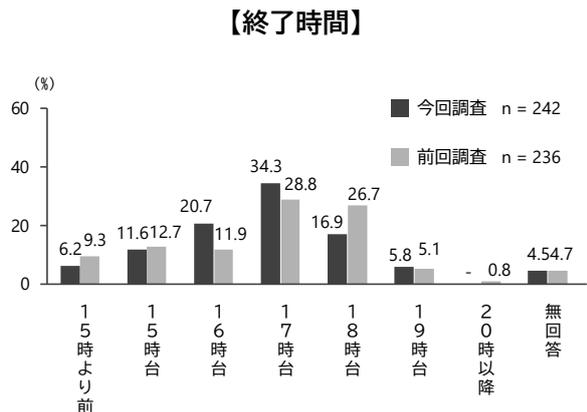
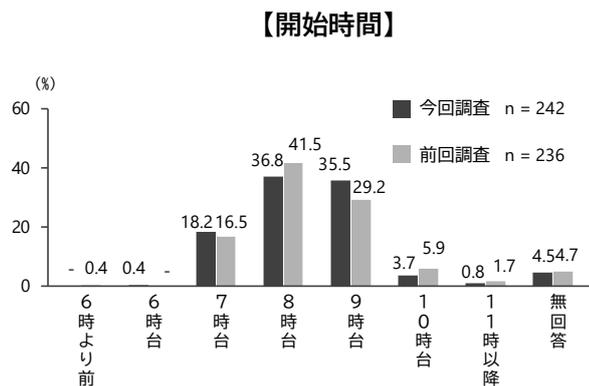
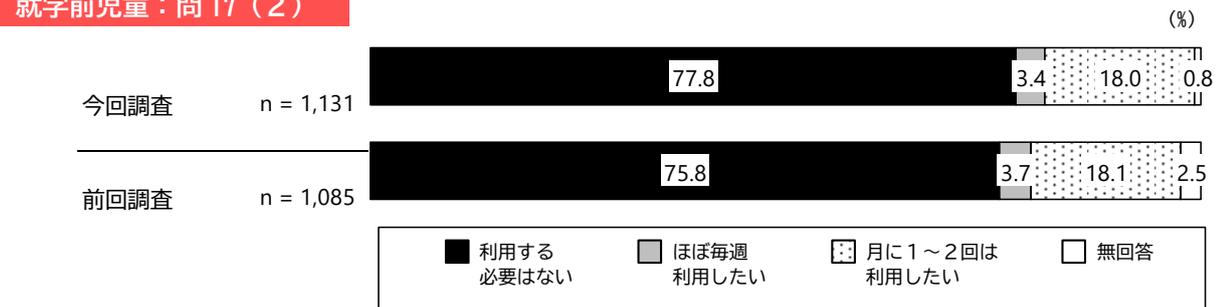
図表 17：土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望

就学前児童：問 17（1）



図表 18：日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

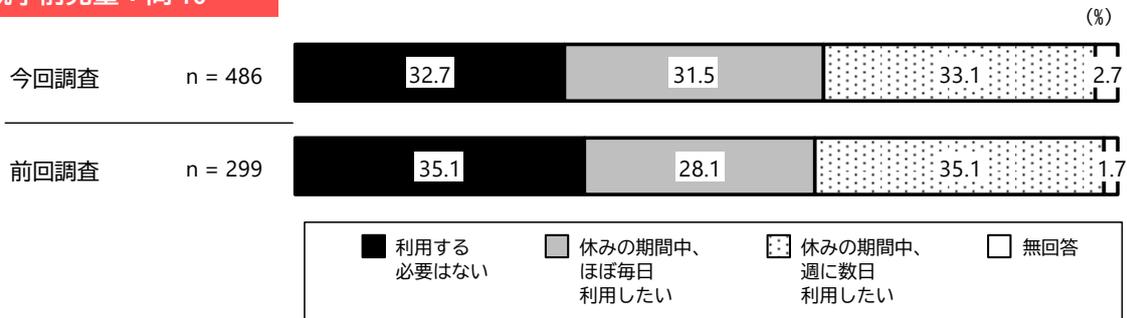
就学前児童：問 17（2）



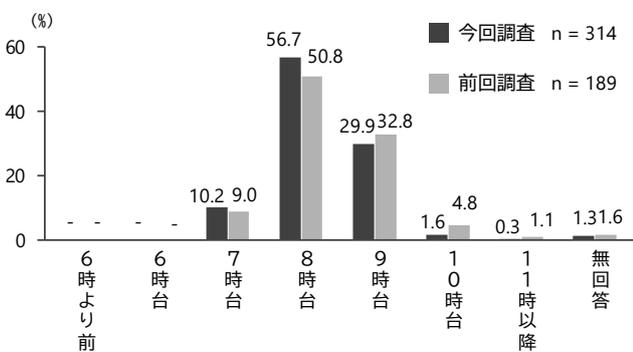
- ▶ 【幼稚園利用者のみ】長期休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用希望については、「週に数日利用したい」が33.1%、次いで「ほぼ毎日利用したい」が31.5%でした。

図表 19：長期休業期間中の定期的な教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者のみ）

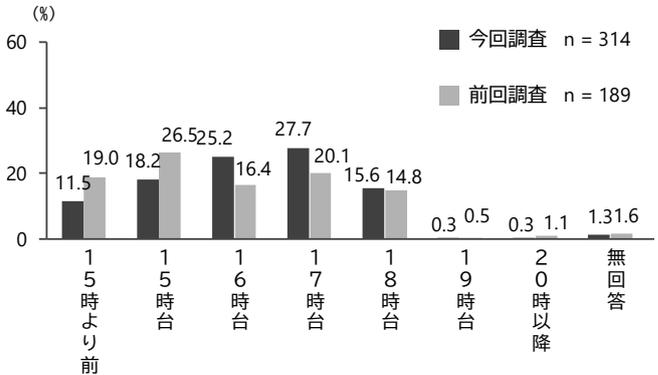
就学前児童：問 18



【開始時間】



【終了時間】

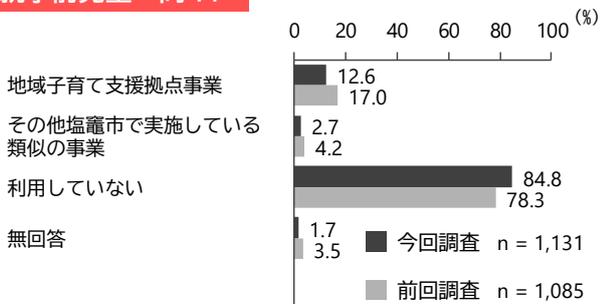


6 地域の子育て支援事業の利用状況・希望について

- ▶ 地域の子育て支援事業の利用状況をみると、現在、地域子育て支援拠点事業を利用している方が12.6%、その他塩竈市で実施している類似事業を利用している方が2.7%となっていました。
- ▶ 利用希望では、「利用していないが今後利用したい」と回答した方が20.1%となっていました。

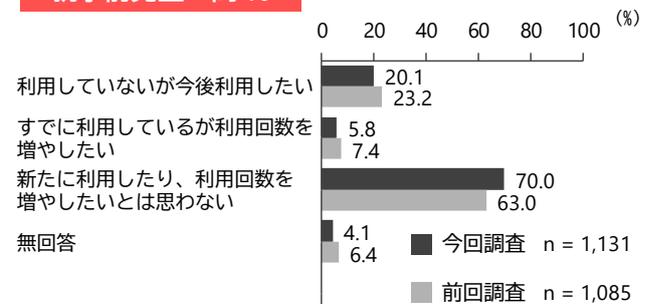
図表 20：現在利用している地域の子育て支援事業（複数回答）

就学前児童：問 14



図表 21：地域の子育て支援事業の利用希望（複数回答）

就学前児童：問 15



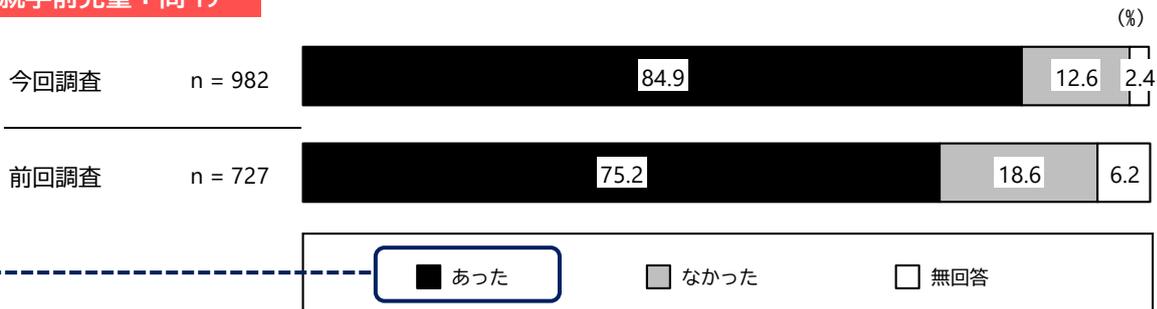
7

病児・病後児保育の利用状況・希望について

- ▶ この1年間に子どもの病気等で定期的な教育・保育事業を利用できなかったことがある方は 84.9%でした。前回調査時から 9.7 ポイント増加しました。対処方法としては、母親が休むが最も多く 80.7%でした。
- ▶ 病児・病後児保育施設等の利用希望については、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が 39.1%でした。病児・病後児保育施設等の望ましい事業形態については、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が 83.5%、次いで「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」が 57.7%でした。

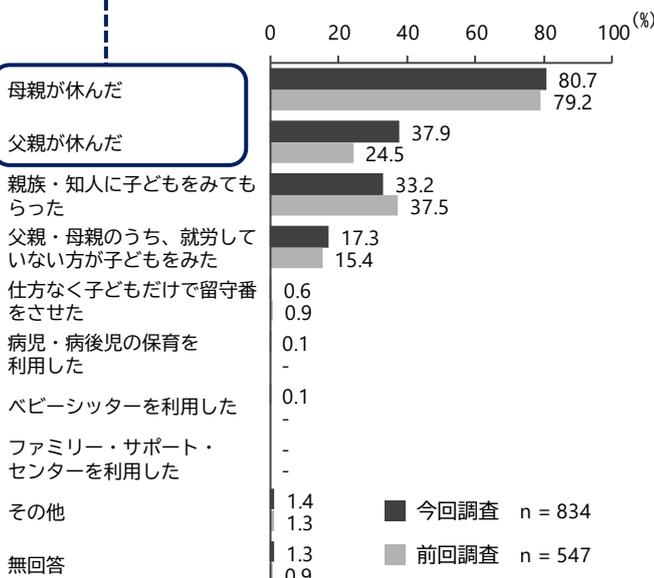
図表 22：この1年間に子の病気等で定期的な教育・保育事業を利用できなかったことの有無

就学前児童：問 19



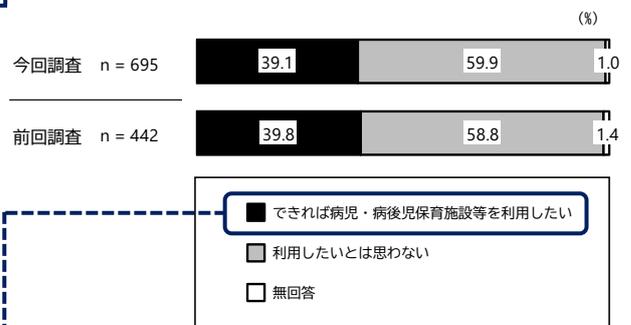
図表 23：利用できなかった場合の対処方法 (複数回答)

就学前児童：問 19-1



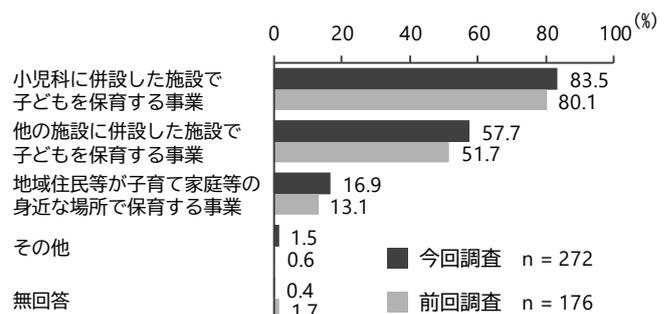
図表 24：病児・病後児保育施設等の利用希望

就学前児童：問 19-2



図表 25：病児・病後児保育施設等の望ましい事業形態 (複数回答)

就学前児童：問 19-3



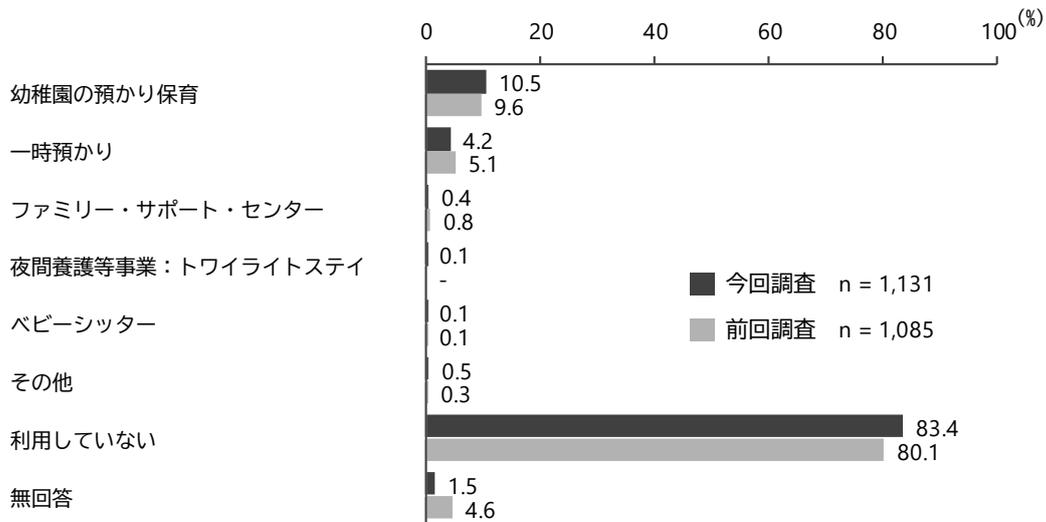
8

不定期の教育・保育事業の利用について

- ▶ 病気等以外の私用や親の通院、不定期の就労等の目的で、現在、保護者が不定期的に利用している教育・保育事業は、「幼稚園の預かり保育」が10.5%、「一時預かり」が4.2%でした。
- ▶ 不定期の教育・保育事業の利用希望については、「利用したい」が47.7%で、前回調査時から10.2ポイント増加しました。

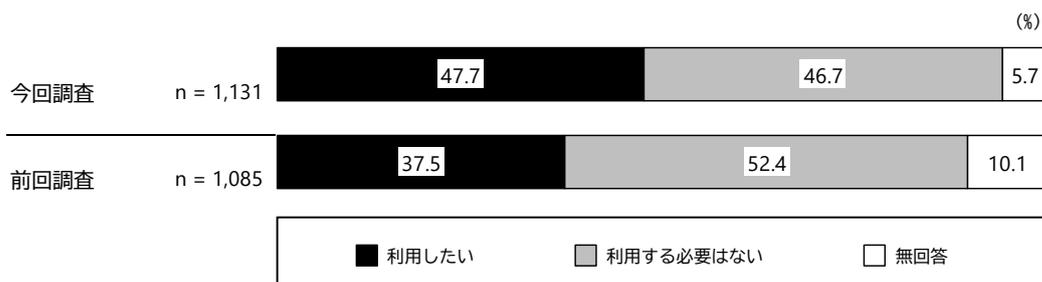
図表 26：不定期的に利用している教育・保育事業（複数回答）

就学前児童：問 20



図表 27：不定期の教育・保育事業の利用希望

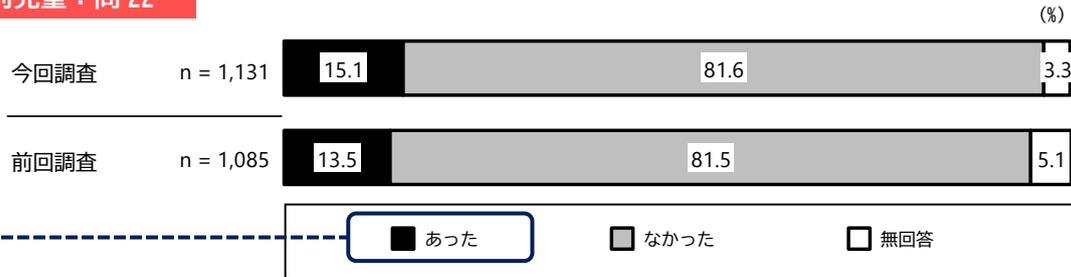
就学前児童：問 21



- ▶ この1年間に冠婚葬祭や保護者・家族の育児疲れ、育児不安、病気等の事情により、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらったことがあった方は1割以上となっていました。その際の対処方法としては、親族・知人にみてもらった方が約9割となっていました。
- ▶ 一方で、親族・知人に泊りがけで子どもをみてもらうことが「非常に困難」「どちらかという困難」と感じている方が半数以上となっていました。
- ▶ 子どもの預け先のひとつであるショートステイを今後利用したい方は1割以上となっていました。そのほとんどの方が「保護者や家族の病気」の際に利用したいと回答しました。

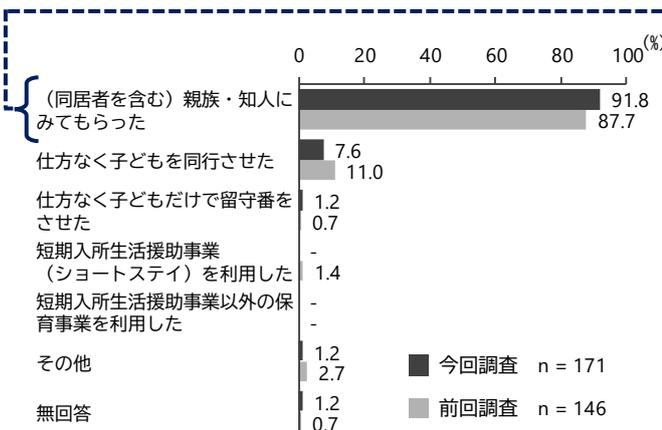
図表 28：この1年間に保護者の事情等で子どもを泊りがけで家族以外にみてもらったことの有無

就学前児童：問 22



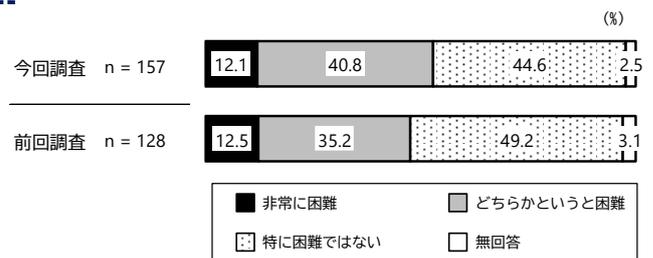
図表 29：子を泊まりがけで見てもらう際の対処方法（複数回答）

就学前児童：問 22



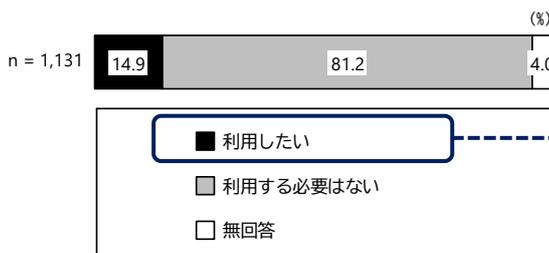
図表 30：親族・知人に泊りがけで子を見てもらう困難度

就学前児童：問 22-1



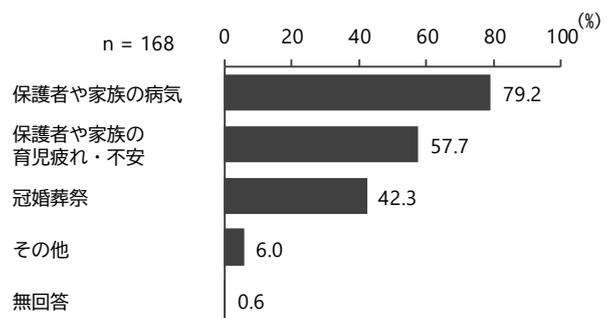
図表 31：ショートステイの利用希望

就学前児童：問 23



図表 32：ショートステイの利用を希望する事情（複数回答）

就学前児童：問 23



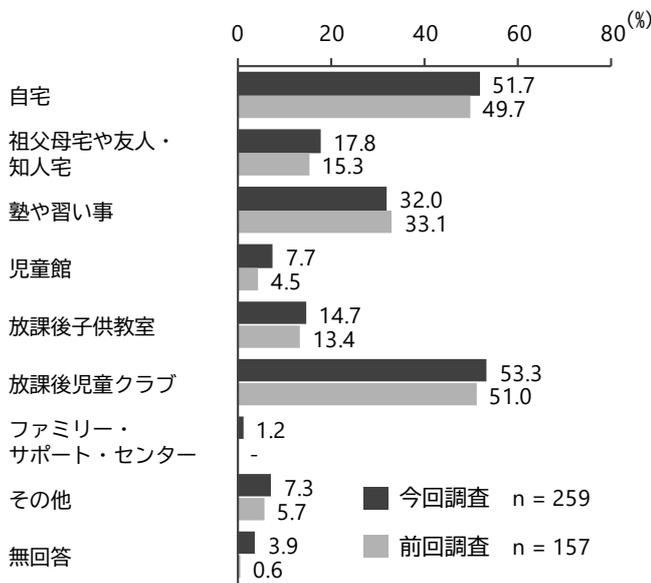
9

放課後児童クラブの利用について

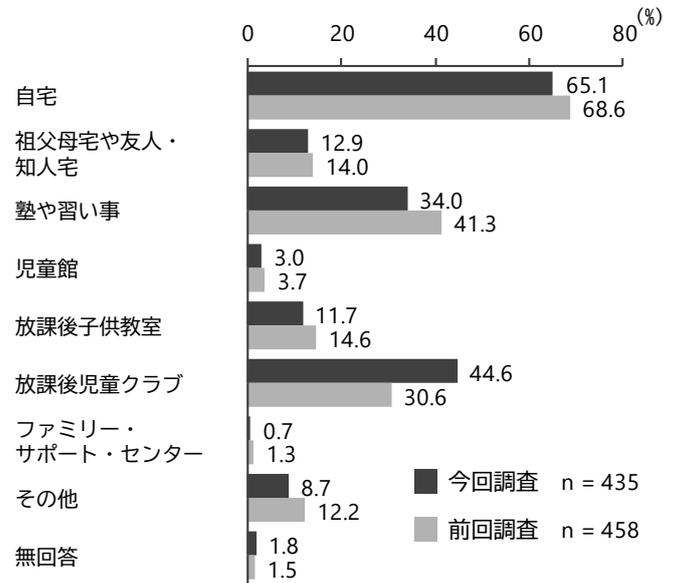
- ▶ 小学校1年生～3年生の期間において、希望する放課後の居場所としては、就学前児童・小学生の保護者ともに、自宅以外では「放課後児童クラブ」が多くなっていました。概ね18時台までの利用を希望されている状況となっていました。
- ▶ 特に、小学生の保護者の希望する放課後の居場所として、「放課後児童クラブ」を選択する方は、前回調査より14.0ポイント増となりました。

図表 33：【小1～小3の期間】希望する放課後の居場所（複数回答）

就学前児童：問 24

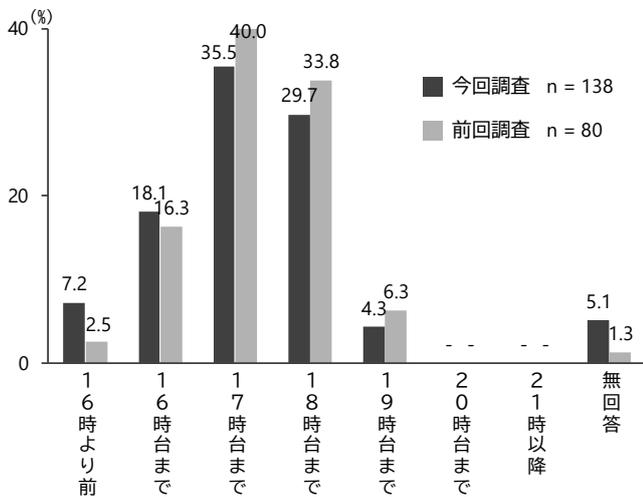


小学生：問9

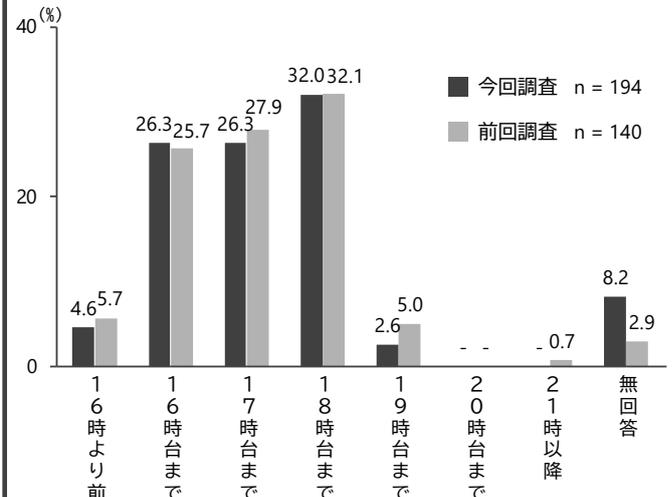


図表 34：【小1～小3の期間】放課後児童クラブの利用終了希望時間

就学前児童：問 24

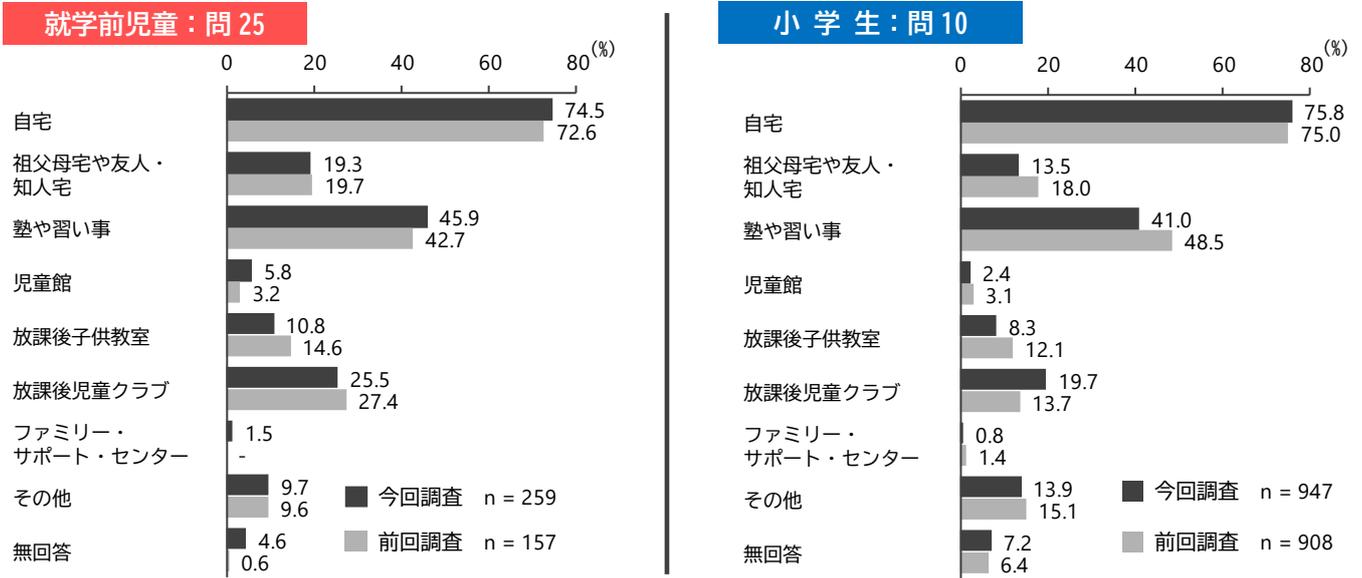


小学生：問9

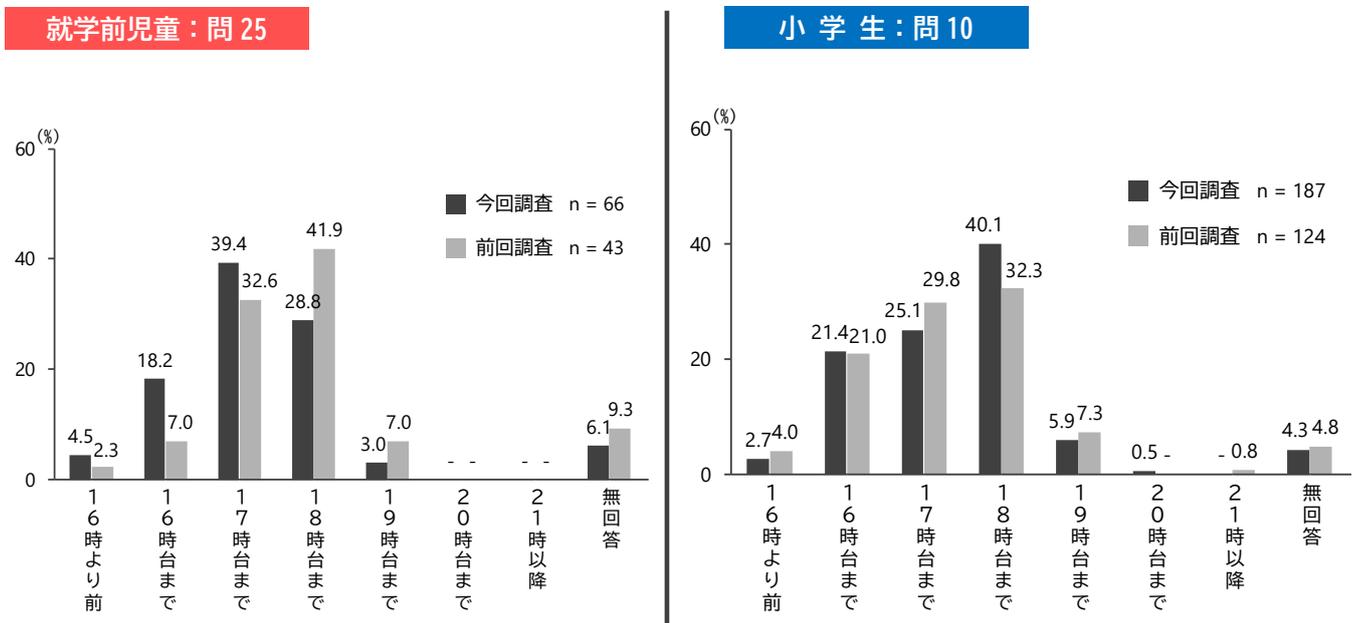


▶ 小学校4年生～6年生の期間においては、自宅以外では「塾や習い事」が多くなっていました。一方で、就学前児童の保護者では「放課後児童クラブ」が25.5%、小学生の保護者では「放課後児童クラブ」が19.7%と一定の利用希望があり、概ね18時台までの利用を希望されている状況となっていました。

図表 35：【小4～小6の期間】希望する放課後の居場所（複数回答）



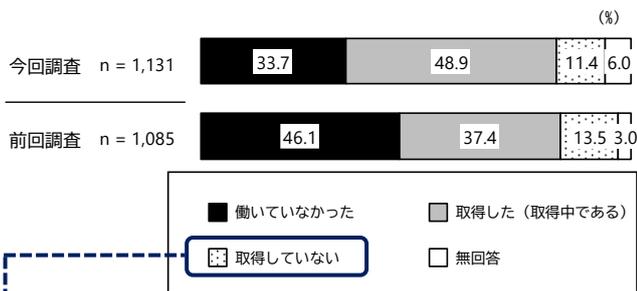
図表 36：【小4～小6の期間】放課児童クラブの利用終了希望時間



- ▶ 育児休業の取得状況をみると、母親では育児休業を取得した（取得中である）方が 48.9%となりました。前回調査時から 11.5 ポイント増加している一方、父親では7割以上の方が育児休業を取得していない状況となりました。
- ▶ 父親の育児休業を取得していない理由では、「仕事が忙しかったため」が 43.8%と前回調査時から 17.1 ポイント増となりました。また、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったため」が 37.6%と 14.5 ポイント増となりました。

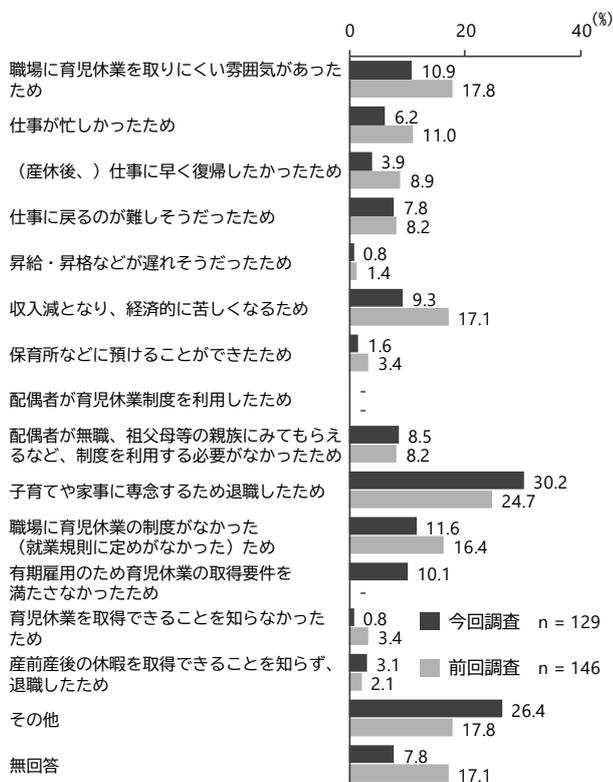
図表 37：【母親】 育児休業の取得状況

就学前児童：問 27（1）



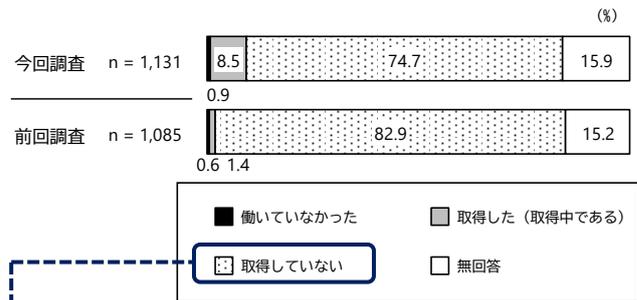
図表 39：【母親】 取得していない理由（複数回答）

就学前児童：問 27（1）



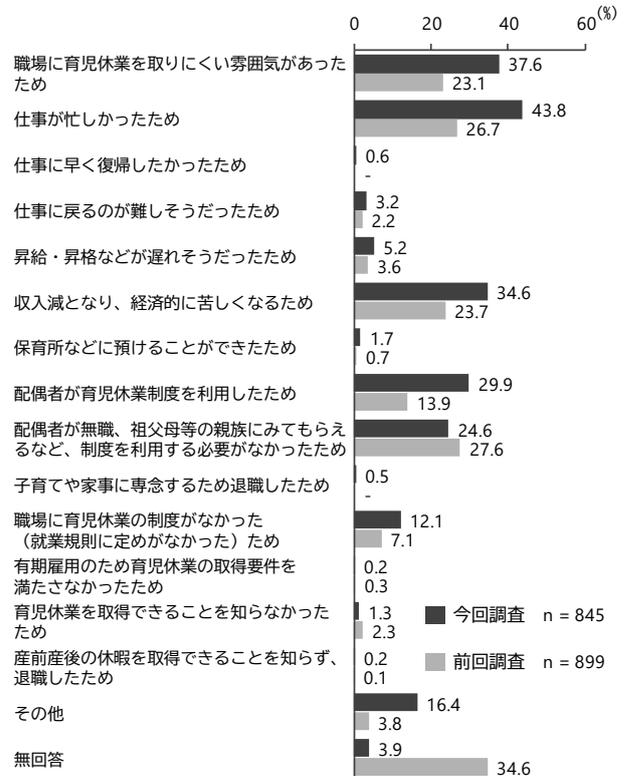
図表 38：【父親】 育児休業の取得状況

就学前児童：問 27（2）



図表 40：【父親】 取得していない理由（複数回答）

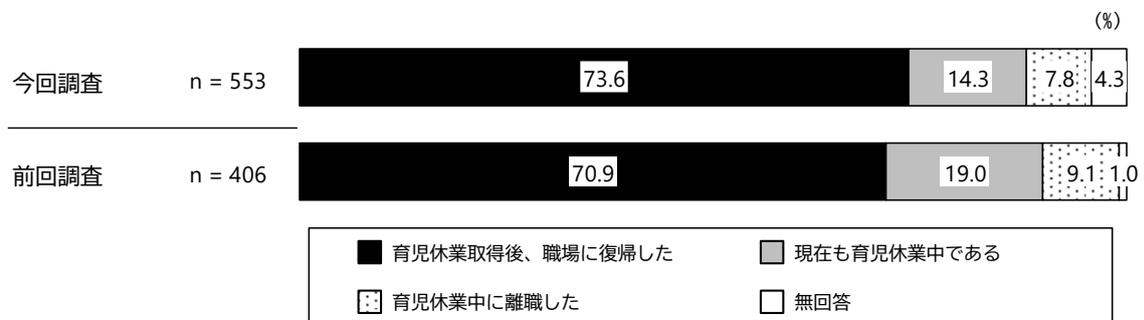
就学前児童：問 27（2）



▶ 育児休業取得後の職場への復帰状況を見ると、母親では約7割の方が、父親では約9割の方が育児休業取得後に職場に復帰している状況となっていました。

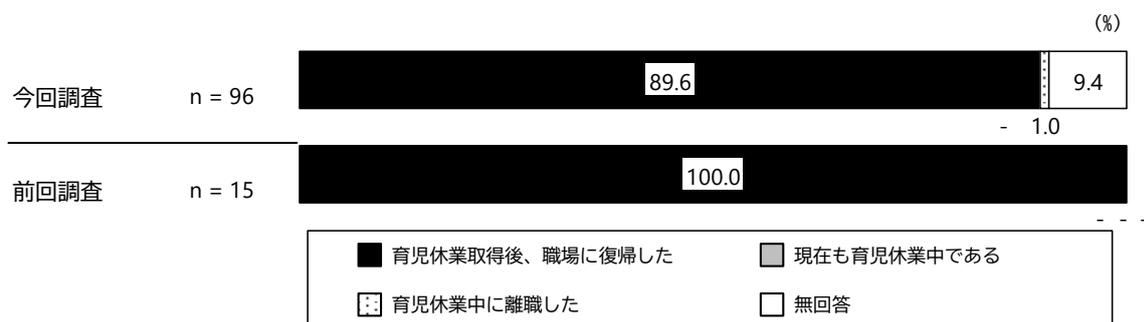
図表 41：【母親】 育児休業取得後の職場復帰の状況

就学前児童：問 28（1）



図表 42：【父親】 育児休業取得後の職場復帰の状況

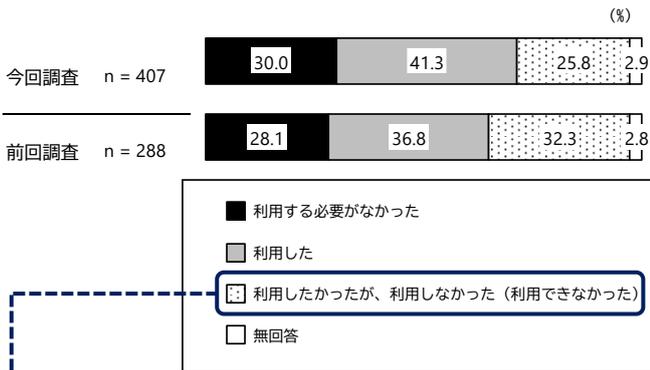
就学前児童：問 28（2）



- ▶ 育児休業取得後の短時間勤務制度の利用状況をみると、母親では4割以上の方が利用していました。前回調査時からやや増加しているものの、母親・父親ともに約3割の方が「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」と回答していました。
- ▶ 短時間勤務制度を利用できなかった理由としては、母親・父親ともに「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があったため」「仕事が忙しかったため」「短時間勤務にすると給与が減額されるため」が多くなっていました。特に「短時間勤務にすると給与が減額されるため」は前回調査時から母親では23.4ポイント増、父親では23.2ポイント増となりました。

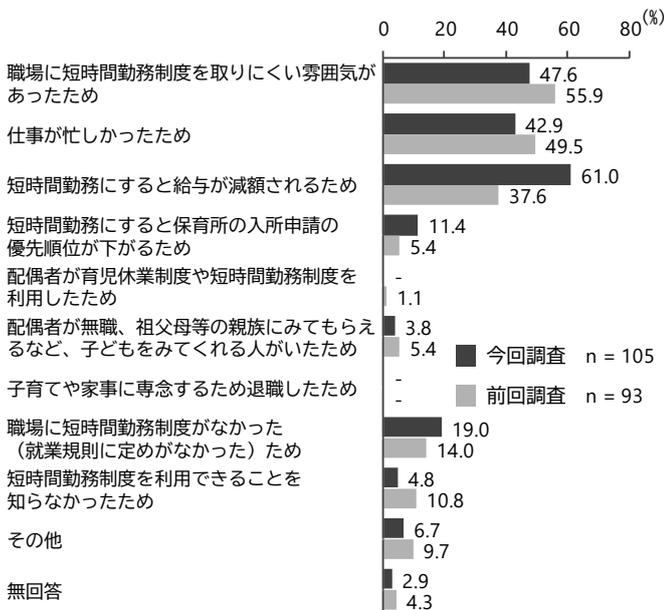
図表 43：【母親】育児休業取得後の短時間勤務制度の利用状況

就学前児童：問 29-4（1）



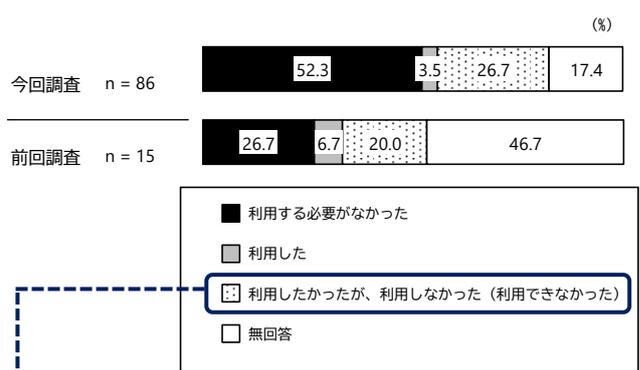
図表 45：【母親】短時間勤務制度を利用できなかった理由

就学前児童：問 29-5（1）



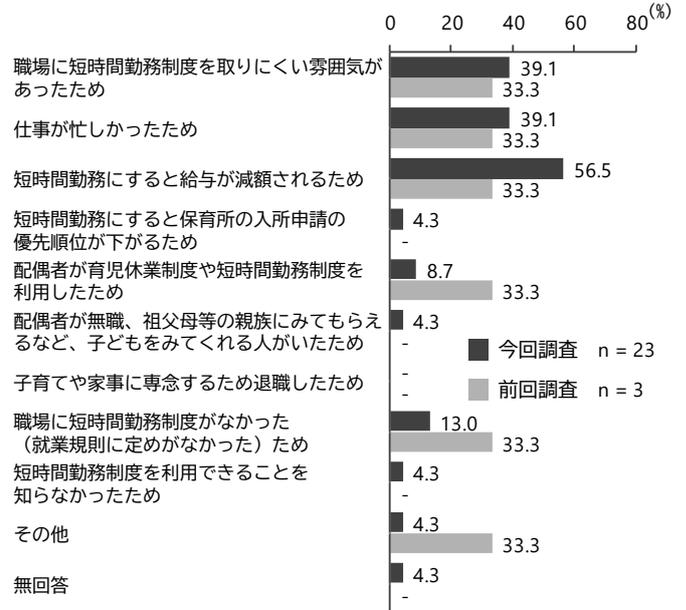
図表 44：【父親】育児休業取得後の短時間勤務制度の利用状況

就学前児童：問 29-4（2）



図表 46：【父親】短時間勤務制度を利用できなかった理由

就学前児童：問 29-5（2）



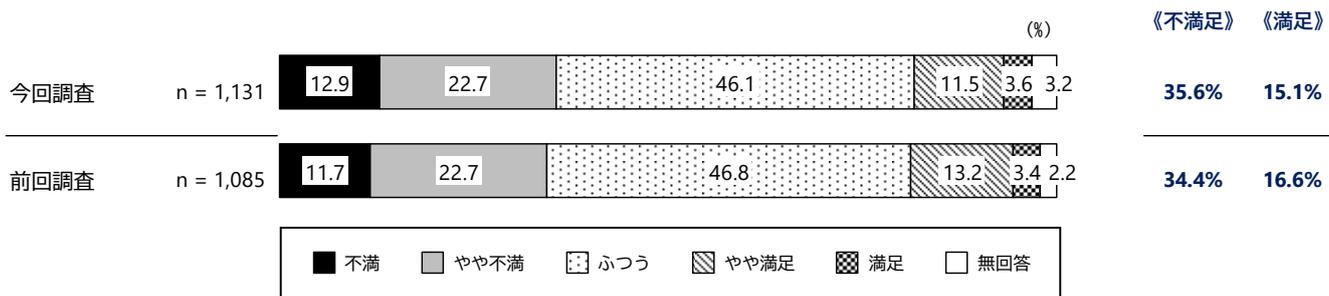
11

本市の子育て環境や支援に対する満足度について

▶ 本市の子育て環境や支援への満足度をみると、《満足》と感じている方は約1～2割となっている状況でした。

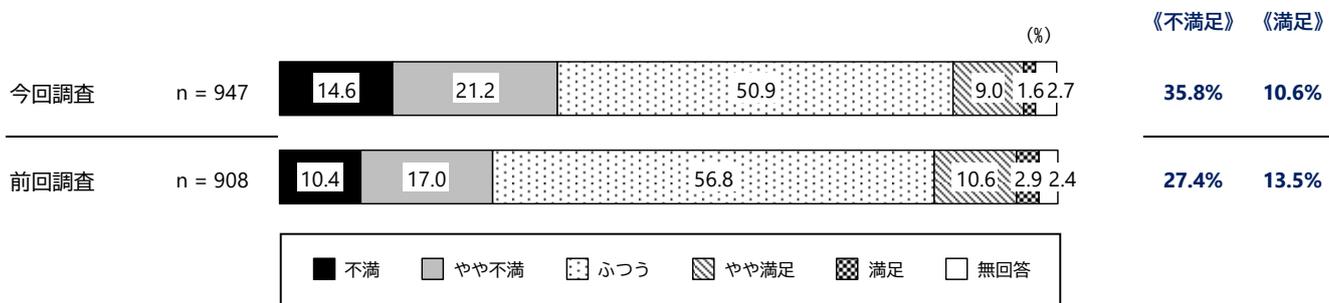
図表 47：市の子育て環境や支援の満足度

就学前児童：問 31



※ 《満足》：「満足」＋「やや満足」、《不満足》：「不満」＋「やや不満」

小学生：問 11



※ 《満足》：「満足」＋「やや満足」、《不満足》：「不満」＋「やや不満」

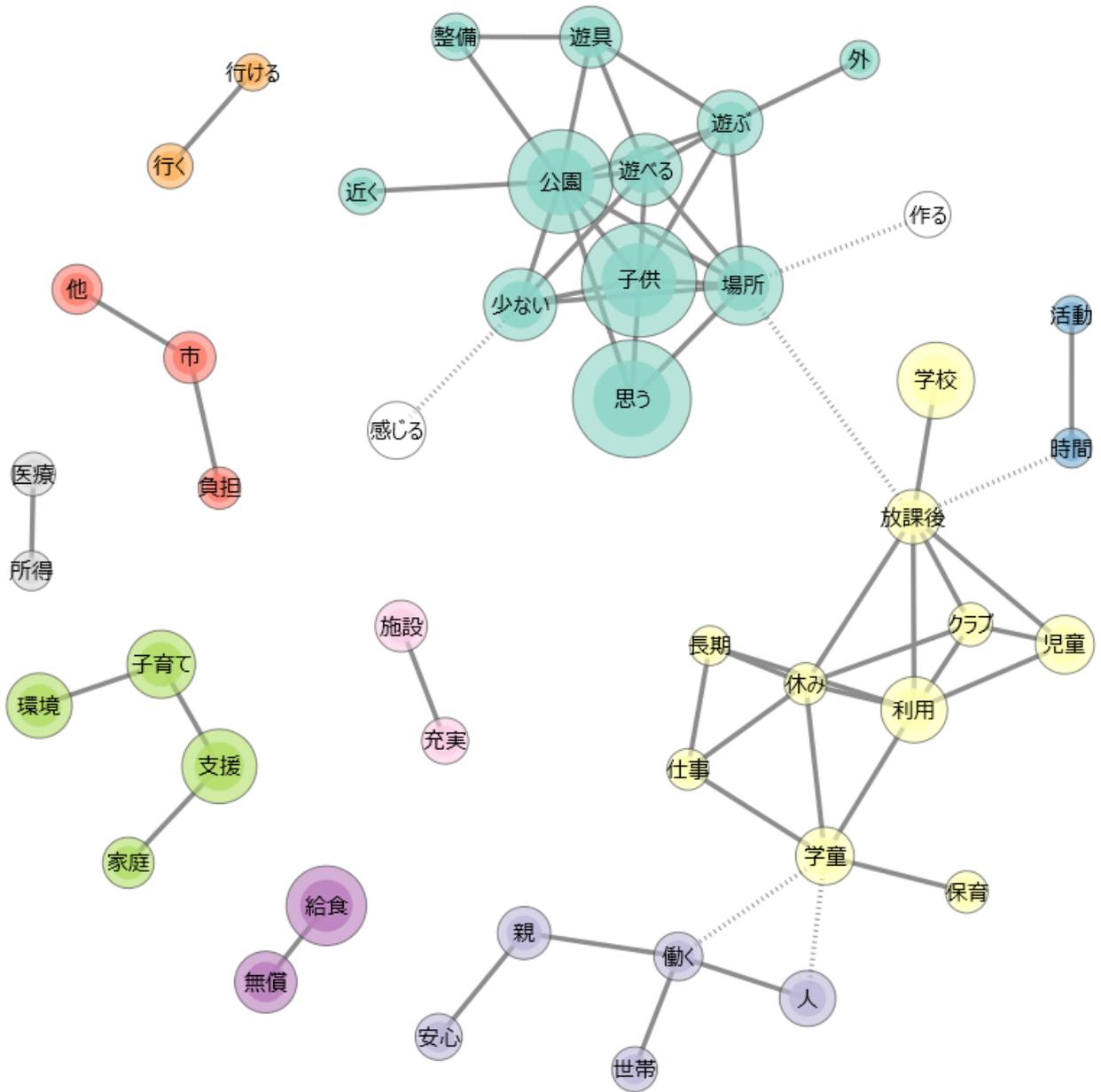
図表 49：就学前児童の保護者に関する自由意見（抜粋）

就学前児童：問 32

抽出語	件数	自由意見（抜粋）
保育・保育園	382	保育園に入園する際の競争率が高いと思います。保育士さんが不足していると聞きましたが、保育士さんが働きやすい環境（給与面や働き方）を作る事が大切だと思います。私は子供が1人ですが、もし2人目を授かれたとしても、また遅く入所できるかが不安です。
		保育施設の空き状況などを気軽に知ることができるとありがたい。保育施設の立地や便がもう少し改善されると良い。
		保育園に関して、子供を送迎する事業等があれば、働き方を変えることができるため、送迎の事業等をしてもらえるとよいと思う。我が家庭では、送迎が非常に大変でした。
		教育、保育、子育てにおいて、もっと金銭的な助成があると助かる。
		塩竈市は病児保育をしている施設が無いので、今後そのようなサポートが増えるとう子育てしやすい、働きやすい環境になるとと思います。どうぞよろしくお願い致します。
公園	299	子供が遊べる場所が少ない、公園はあるが魅力的な遊具が少なく、古く壊れているものも散見されるので整備して欲しい。
		塩竈市内には子どもと遊べる施設や公園が少な過ぎる。公園の整備に力を入れて欲しい。希望としてはキッズニアのような遊びながら学べる施設があると良いと思う。
		子供が遊べる場所が欲しい。七ヶ浜町の「ながすか多目的公園」や、利府町の「モリリン加瀬沼公園」や「いこいの広場」のような、大型遊具で遊べる場所が欲しい。塩竈市内で楽しんで遊べる。遊具が充実している場所が無いので、週末は、ほとんど利府町方面へ遊びに行きます。（商業施設ではなく、公園）子供は外で遊ぶのが大好きです。公園をもっと充実させて欲しいです。
施設	149	塩竈市にも利府町のような平日に子供が遊びに行けるような施設があるといいなと思います。
		こころん等の施設も、とても小さな子向けのように感じ、市内にもっと大きめの子供達が安心して遊べる施設、公園、遊具があると良いと感じています。道がせまい割りに交通量があるなどの危険な場所も多く、もう少し整備が進むと安心して生活ができると思っております。
		室内で子供が遊べる（体を動かして）施設が欲しい。平日だけではなく、休日にも利用できる所が欲しい。
		多賀城市のすくっぴーひろばのような、土日とも一時預かりできる施設や、塩竈市にも病児保育を作って頂きたいです。病児保育を利用する機会があった時、仙台市の方にしかないのではとても不便でした。
支援	148	子供が幼稚園に入る前は、毎日のように子育て支援センターや、つどいに行っていました。情報交換に限らず、私たち母親の精神面でのサポートもたくさんしていただき、本当にありがたい場所でした。上の子供が小学校に入学し、立ち入る事ができなくなったため、行く機会は激減しましたが、子育てをする母親・父親にとって大変ありがたい施設だと思います。
		こころんなどの子育て支援施設やイベント等は、利用しやすいように市から発信されているので、子育てをしている身としてはありがたいです。ただ、住んでいる地域によっては少し通いづらいかなとも思います。また、保育士さんや保健師さんが常駐されているので、相談事がある場合はとても助かるし、安全面でも心強いところはありますが、逆にそれが窮屈に感じることも…。
		特別支援の質の向上を願います。「わかる人」が各学校や園に一人は居ると安心。また、必要な相談機関や福祉支援に「つなぐ人」が不足しているように感じる。保護者の負担が大きい。

図表 50：小学生の保護者に関する自由意見（共起ネットワーク）

小学生：問12



図表 51：小学生の保護者に関する自由意見（抜粋）

小学生：問12

抽出語	件数	自由意見（抜粋）
公園	170	家の近くに公園があればと思います。少し歩くので低学年だけだと不安です。東北歴史博物館など近隣の施設にもっと行ければ良いと思います。
		子供達が放課後に遊ぶ公園の遊具がほぼ故障しており、遊具の数も少ないと思う。外で遊べる環境が整っていないから、ゲームや、動画を見たりしてしまうのではと思う。
		子供達が放課後に公園で遊んでいて「うるさい」と学校へ苦情が入り、子供達が注意されたことがあります。楽しく安心して遊べる場所、運動ができる場所を作ってほしいと思います。
		どこの公園も環境整備がされていないので、キレイにメンテナンスと常にキレイな状態を維持してほしい。夏は草がぼうぼうで、遊具はぼろぼろ、使用禁止の遊具もあって、とても遊べる環境ではない。ボール遊びも安全にできる広場があるといいです。
給食	99	給食費を無償にしてほしい。働いても食べざかりの子供達なので、すぐにお金がなくなってしまう。
		給食の回数（日数）を充実させて、弁当の日を極力減らしてもらいたいです。他市町でもこれ程弁当の日が多い市は他にないです。母子家庭で月に何度も弁当がある（しかも上の子が中学になると弁当の日も小学校と別々）と、金銭面でも労力的にも負担が大きいです。
		オーガニック給食や無添加ハンドソープなどを積極的に取り入れて、他市町村からもモデルとされるような子育て環境を実現してほしい。
場所	97	放課後に遊べる場所の少なさを感じています。（唯一遊んでた）小学校の遊具が壊れているままなので直していただきたいです。
		放課後児童クラブ以外で、子どもたちが自由に遊んだり過ごせたりできる場所がほしい。家に帰っても自由に友だちと遊べないため、本人の希望で学童の利用を少し長くする時がある。
		小学4年生、中学一年の母です。子供の遊べる場所がなくいつも家にいます。お友達が来ても近くに遊べるような場所が公園しかありません。もっと子供達が自由に体を動かしたり、遊べたり、おやつを食べたり、楽しめる場所がほしいです。そして、中学生は友達と勉強したりできる場所がほしいです。今の所、図書館しかなく、せますぎてテスト前などは混んだら行けません。
学校	91	現在の学校生活において、親世代よりも何かと先生方も気を遣われ、対応して下さっているのが伝わります。一生懸命やって下さっていること、とても感謝しております。私自身は母子家庭ではありますが、祖父母宅が近いため、放課後も見てもらいながら働くことができている。現代社会において、今後母子家庭は増加傾向にあると感じています。放課後の学童保育の拡大、充実を視野にいれて頂けると、子供達の少しの安定につながるのではないかと思います。ご検討よろしくお願い致します。
		仲よしクラブの利用を長期休み（夏休み）（冬休み）のみ利用できるように塩竈市もしていただきたいです。平日は学校に合わせてできるけど、夏休み中ほとんど一人で留守番は難しいので長期休みのみの利用ができれば安心して仕事ができる。
		学校教育について、授業の内容や教員の支援などにもっと力を入れて欲しい。生徒の学が意欲を育てて頂きたいです。

調査結果から見えた現状と課題

課題 1 すべての妊産婦や子育て世帯、子どもに対する包括的な支援の充実

【調査結果から見えた本市の現状】

- ▶ 就学前児童の保護者の多くは、日常的に、または緊急時や用事の際に、親族や友人・知人に子どもをみてもらえる状況であり、また、気軽に子育てに関する相談ができる相手もいる状況となっていました。一方で、ひとり親家庭等、周囲に頼れる相手や相談相手がおらず、孤立してしまっている状況も伺えました（図表4、図表7）。

【課題の考察】

- ▶ 困りごとを抱えている家庭等が孤立することなく、相談や必要な支援につなげることができるよう、令和6年4月1日に設置される「こども家庭センター」を中心としながら、切れ目のない包括的な支援の充実を図る必要性が見てとれます。
- ▶ 特にひとり親家庭においては、幼稚園・保育所・学校・団体・サークル・民生児童委員等と連携し、身近において相談がしやすい体制の強化を図るとともに、ファミリー・サポート・センター事業等の相互援助活動の拡充や、活用ができる事業の情報提供を図るなどの支援の重要性を認識することができます。

課題 2 待機児童の解消や多様な保育ニーズへの的確な対応

【調査結果から見えた本市の現状】

- ▶ 就学前児童の保護者では、平成30年度（前回調査時）と比べ、働く親が増加していました。子育てと仕事の両立等のため、定期的な教育・保育事業を利用している方が増加している一方で、事業の空きがないこと等を理由に、教育・保育事業を利用できていない方が一定数おりました（図表9、図表11、図表13、図表14）。
- ▶ 教育・保育事業のうち、全体としては保育事業の利用が高い状況でした。今後の利用希望としては、主に「幼稚園の預かり保育」、「認定こども園」が増加していました。土曜日や日曜・祝日、長期休業期間中の教育・保育事業の利用を希望する方は平成30年度（前回調査時）時から引き続き一定数おりました。そのほか、私用や親の通院、就労等により、不定期に教育・保育事業を利用したい方や、子どもが病気等の際に病児・病後児保育施設等を利用したい方など、保護者における多様な教育・保育ニーズがありました（図表15、図表17、図表18、図表19、図表24、図表27）。

【課題の考察】

- ▶ 就学前児童の保護者においては、待機児童の解消や多様な教育・保育ニーズに対応するため、提供体制の確保や保護者に寄り添った多様なサービスの提供が望まれています。

課題3 放課後の居場所づくりに向けた放課後児童クラブの拡充

【調査結果から見えた本市の現状】

- ▶ 就学前児童・小学生の保護者において、子どもが小学生の頃における放課後の過ごし場所として、放課後児童クラブの利用を希望する方が多くなっていました。特に小学校低学年での利用ニーズが高く、高学年になると、塾や習い事へのニーズの高まりが伺えますが、依然として、一定数の方が放課後児童クラブの利用を望まれていました。利用時間は18時台、さらには19時台までの利用を希望されている方もいる状況でした（図表33、図表34、図表35、図表36）。

【課題の考察】

- ▶ 就労している保護者が増加している中、子どもを安心して預けられる居場所として、放課後児童クラブのニーズは高いため、定員数の拡大による受け入れ体制の整備等を図る必要性が見てとれます。

課題4 子育てと仕事を両立しやすい環境づくり

【調査結果から見えた本市の現状】

- ▶ 育児休業や短時間勤務制度の利用状況をみると、平成30年度（前回調査時）に比べ、利用されている方が増加していました。一方で、職場に育児休業や短時間勤務制度を利用しづらい雰囲気があったり、育児休業や短時間勤務制度を利用することにより、収入減になったりといった理由で、利用していない、または利用できていない方が多くいました（図表37、図表38、図表39、図表40、図表43、図表45、図表46）。

【課題の考察】

- ▶ 育児休業や短時間勤務制度の利用を希望する方が、制度を利用することができるよう、企業等に対して、理解の促進や制度の普及に努めることの必要性が見てとれます。

課題5 地域全体で子育てを支援する環境づくり

【調査結果から見えた本市の現状】

- ▶ 就学前児童・小学生の保護者ともに、子どもの遊び場の解消や子どもの健やかな成長のために、充実した子育てサービスや公園等の環境整備を望む声が多くありました（図表49、図表51）。

【課題の考察】

- ▶ 子どもや子育て世帯を地域全体で支える機運を醸成し、官民が連携して、地域にある社会資源を有効活用しながら、こども・子育てにやさしい地域づくりに努めることの必要性が見てとれます。
- ▶ 公園等の環境整備に努めるとともに、子どもが十分に体を動かすことのできる機会の創出など、子どもが健やかに育つ環境づくりに努めることの必要性が見てとれます。

塩竈市 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果報告書【概要版】

発行年月	令和6年3月
発行	塩竈市役所 福祉子ども未来部 子ども未来課
住所	〒985-0052 宮城県塩竈市本町1番1号
T E L	022-355-7610
F A X	022-366-7167
U R L	https://www.city.shiogama.miyagi.jp/